

日本学術会議 総合工学委員会・機械工学委員会合同
計算科学シミュレーションと工学設計分科会

計算科学を基盤とした産業競争力強化の検討小委員会
第24期・第6回 会議議事録

日 時 平成31年4月11日（木） 10:00～12:00

会 場 日本学術会議5階 5-C(2)会議室

出席者 佐々木直哉、金田千穂子、青木伸俊、青柳岳司、井手貴範、宇佐見護、
大出真知子、大野隆央、越塚誠一、白鳥正樹、萩原一郎、吉田有一郎、
毛利哲夫（オブザーバー参加）（敬称略）

議事

1) 前回議事録の確認

出席委員により議事録を承認することを確認した。

2) 意見交換（シンポジウムの反省、今後の活動、その他）

色々な意見があったけれども、今後どのように発展させていくのか、方向性の絞り込みが重要。
ソフトウェアメンテナンスの重要性を改めて認識する。

（我が国の特徴の一つである）スパコン対応のアプリケーションを活用する方法を考える。支援組織が必要か？必要な場合の予算は？

インダストリアル・ファクター：「シンセシス」を評価するための指標

企業（産業界）では、良い製品ができれば給料が上がる；評価の仕組みがある。
アカデミアでは、製品売上になるまで時間を要する。良い研究が、製品売上に直結しない場合もある。企業と同じ評価である必要はない。

大学教員評価（他所で詳しく議論されているので簡潔に）

- 研究（論文）、教育、社会貢献、学内貢献
- 研究と教育が重要だが、社会貢献が定性的なアピールになる。
- 地域の大学であっても、地域貢献だけで昇任することは困難だろう。

研究者評価の現状

- 論文数：著者順が評価対象となる場合もある。筆頭、第二、最終、その他など。ただし、数理科学分野ではアルファベット順が採用される傾向があるなど、分野による。

- 論文に役割分担を明記する；一部雑誌でのみ行われている。
- インパクトファクターの重要性は薄れつつある；インパクトファクターを個人評価に用いるべきでない。
- 論文引用数；使用したソフトウェアの論文を引用することを、査読者がチェックして欲しい。自己引用を除いて評価する。

ソフトウェア（開発者）の評価

- ダウンロード数：個々のソフトウェアでは数えているだろう。
- （提案）論文著者の拡がり；様々なグループ、幅広い分野に貢献しているソフトウェア開発者を高く評価する。人材の流動性。
- （提案）学会等が賞を授ける「技術賞」。表彰する。
 - PCoMS「研究者奨励賞」

デジタルモデルを活用したモノづくり、データ「一気通貫」

- 海外ベンダーは積極的に取り組んでいる。日本は大丈夫か？
- 日本の優位性は「ノウハウの積み重ね」「すりあわせ」にある。これを活かすことも考える。

産業活性化のために、ソフトウェアをいかに活用するのか（次回シンポジウム）

- ユーザー代表の参加
- 日本を代表するベンダーに参画してもらう
- ソフトウェアの信頼性が重要
 - 先端科学のソフトウェアは別物
- 次期 SIP-MI では、複数のソフトウェア間の「連携」を重視している。
 - 開発者にメリットがあるように工夫している。

視点の整理、議題を明確にすること

- 誰を対象にするのか；中小企業が活用することを支援する
- 人材育成、技術移転

次回（第7回）委員会にて、絞込みを実施する。

配布資料

資料1 第5回会議議事録

資料2 シンポジウムを踏まえたコメント（白鳥委員）